

## 救急 初期研修カリキュラム

### I 目標(GIO)

1. 生命や機能的予後に係わる、緊急を要する病態や疾病、外傷に対する適切な診断・初期治療能力を身につける。
2. 重症救急患者をハイケアユニット(HCU)で管理するために、重症患者の病態を把握し、かつ重要臓器不全に対する集学的治療を実施する。
3. 救急・集中治療における安全確保の重要性を理解する。
4. 救急医療システムを理解する。
5. 災害医療の基本を理解する。

### II 行動目標(SBOs)

1. プレホスピタルケアについてその概要を説明できる。救急搬送システムにつき説明できる。救急救命士、救急隊員の業務を理解し、協力して救急業務を遂行する。
2. 救急・集中治療診療の基本的事項
  - 1) バイタルサインの把握ができる。
  - 2) 身体所見を迅速かつ的確にとれる。
  - 3) 重症度と緊急度が判断できる。
  - 4) 二次救命処置(ACLS)ができ、一次救命処置(BLS)を指導できる。
    - \* ACLS (Advanced Cardiovascular Life Support)は、バッグ・バルブ・マスク等を使う心肺蘇生法や除細動、気管挿管、薬剤投与等の一定のガイドラインに基づく救命処置を含み、BLS(Basic Life Support)には、気道確保、心臓マッサージ、人工呼吸等の、機器を使用しない処置が含まれる。なお、AHA(米国心臓協会)の認定するBLSおよびACLSコースを受講することが望ましい。
  - 5) 頻度の高い救急疾患・外傷の初期治療ができる。
  - 6) 専門医への適切なコンサルテーションおよび申し送りができる。
  - 7) 大災害時の救急医療体制を理解し、自己の役割を把握できる。
  - 8) 急性中毒患者の初療ができる。
  - 9) どのような重症患者をHCUで管理するべきであるか判断できる。
  - 10) HCUにおける基本的な重症患者管理につき説明し実施できる。
3. 救急・集中治療診療に必要な検査
  - 1) 必要な検査(検体、画像、心電図)が指示できる。
  - 2) 緊急性の高い異常検査所見を指摘できる。

#### 4. 経験しなければならない手技

- 1) 気道確保を実施できる。
- 2) 気管挿管を実施できる。
- 3) 人工呼吸を実施できる。
- 4) 心マッサージを実施できる。
- 5) 除細動を実施できる。
- 6) 注射法(皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈路確保、中心静脈路確保)を実施できる。
- 7) 緊急薬剤(心血管作動薬、抗不整脈薬、抗けいれん薬など)が使用できる。
- 8) 採血法(静脈血、動脈血)を実施できる。
- 9) 導尿法を実施できる。
- 10) 穿刺法(腰椎、胸腔、腹腔)を実施できる。
- 11) 胃管の挿入と管理ができる。
- 12) 圧迫止血法を実施できる。
- 13) 局所麻酔法を実施できる。
- 14) 簡単な切開・排膿を実施できる。
- 15) 皮膚縫合法を実施できる。
- 16) 創部消毒とガーゼ交換を実施できる。
- 17) 軽度の外傷・熱傷の処置を実施できる。
- 18) 包帯法を実施できる。
- 19) ドレーン・チューブ類の管理ができる。
- 20) 緊急輸血が実施できる。

#### 5. 経験しなければならない症状・病態・疾患

##### A 頻度の高い症状

- 1) 発疹
- 2) 発熱
- 3) 頭痛
- 4) めまい
- 5) 失神
- 6) けいれん発作
- 7) 視力障害、視野狭窄
- 8) 鼻出血
- 9) 胸痛
- 10) 動悸
- 11) 呼吸困難

- 12) 咳・痰
- 13) 嘔気・嘔吐
- 14) 吐血・下血
- 15) 腹痛
- 16) 便通異常(下痢、便秘)
- 17) 腰痛
- 18) 歩行障害
- 19) 四肢のしびれ
- 20) 血尿
- 21) 排尿障害(尿失禁・排尿困難)

B 緊急を要する症状・病態

- 1) 心肺停止
- 2) ショック
- 3) 意識障害
- 4) 脳血管障害
- 5) 急性呼吸不全
- 6) 急性心不全
- 7) 急性冠症候群
- 8) 急性腹症
- 9) 急性消化管出血
- 10) 急性腎不全
- 11) 急性感染症
- 12) 外傷
- 13) 急性中毒
- 14) 誤飲、誤嚥
- 15) 熱傷
- 16) 流・早産および満期産(当該科研修で経験)
- 17) 精神科領域の救急(当該科研修で経験)

※重症外傷症例の経験が少ない場合、JATEC (Japan Advanced Trauma Evaluation and Care)の研修コースを受講することが望ましい。

6. 救急医療システム

- 1) 救急医療体制を説明できる。
- 2) 地域のメディカルコントロール体制を把握している。

## 7. 災害時医療

- 1) トリアージの概念を説明できる。
- 2) 災害時の救急医療体制を理解し、自己の役割を把握している。

## III 方略

- ・病棟で救急・集中治療部入院患者を受け持ち、上級医・指導医の指導のもと受け持ち医として主体的に診療する。
- ・救急外来において、上級医・指導医の指導のもと救急患者の診療に主体的に従事する。
- ・HCUの朝のカンファレンスで、プレゼンテーションを行う。
- ・関連学会、研究会等に積極的に参加し自己学習に努める。